

「福島に学ぶプロジェクト」 活動報告

タイトル	福島に学ぶプロジェクト活動 結果報告		
学校名	福島県立いわき翠の杜高等学校	教員名	野口 修
学年	1～3学年	教科	理科・地歴公民科
使用した教材	・福島県教育委員会「放射線に関する指導資料」・文部科学省「放射線副読本」		

1. 目的

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から15年目を前に、震災等をよく知らない世代が高校生になり、福島県人として忘れてはいけない歴史に目を向け、正しい理解のもと、県外や次世代に向けて情報を発信することが、今後不可欠と考えられる。そのために、科学的根拠に基づいて判断し、自らの言葉で表現する力を身に付けさせることを目的として活動した。

2. 内容 ※関連事業を含む。

(1) フィールドワーク・語り部研修（7月）

「東日本大震災・原子力災害伝承館」「震災遺構請戸小学校」で有志生徒20名が研修を行った。



(2) 新潟での交流活動（8月）

日本生物教育会第79回全国大会新潟大会での高校生ポスター発表において、『東日本大震災から15年～常磐ものの魅力再発見！』をテーマに発表と交流を行い、「優秀賞」を受賞した。



福島県で獲れる「常磐もの」の安全性や魅力について、地元鮮魚店おのぎき様の協力をいただき、有志生徒5名が探究の成果を踏まえて発表した。

(3) チーム兵庫との交流（8月）

灘高校をはじめとする兵庫県内の高校生ら約25名と富岡町にて有志生徒5名が交流した。特に、除染土の処理問題が話題になった。

(4) 語り部講話（8月）

選択授業で、開沼博先生（東京大学大学院）を講師とし、小野陽洋氏による語り部授業を行った。

(5) 福島第一原子力発電所視察・座談会（9月）

有志生徒4名が参加した。

(6) 出前講座（11～12月）

阿部洋己先生（日本大学工学部）を講師とし、放射線の基礎を学んだ。また、和田敏裕先生（福島大学）を講師とし、食と放射線の観点から、福島の農林水産業再生の取り組みについて学んだ。



(7) 冬季特別課外学習（12月）

有志生徒が「科学技術館」「東京都立第五福竜丸展示館」において学習した。



3. まとめ

「放射線はうつる・怖い」と思っていた生徒が多数いたが、使い方次第で「善」にも「悪」にもなりうる「身近にあるもの」という認識が変わった。また、放射性廃棄物の処理問題などにも目を向けられるようになった。理科だけでなく他教科などとも連携しながら、地道に続けていきたい。

4. その他

本プロジェクトを円滑に進めるにあたり、多大なる御支援と御協力をいただきました、日本科学技術振興財団をはじめとする関係の皆様へ、深く御礼申し上げます。

5. 参考文献等

- ・放射線教育支援サイト「らでい」
(<https://www.radi-edu.jp/>) 他